

「家がいいね」 第253号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2025. 6. 7

雨がふります 雨がふる あそびに行きたし 傘はなし
紅緒（へにお）の木履（かっこ）も 緒（お）が切れた

雨がふります 雨がふる いやでもお家で遊びましょう
千代紙（ちやがみ） おりましょう たたみましょう

雨がふります 雨がふる けんけん小雉子（こぎじ）が
今啼（な）いた 小雉子も寒（さ）かる 寂（さ）しかる

雨がふります 雨がふる お人形（おにんぎょう）かせど まだ止まぬ
お線香（せんこう）花火（はなび）も みな焚（た）いた

雨がふります 雨がふる
雨（あめ）もふる 夜（よ）もふる
雨がふります 雨がふる

雨（作詞 北原白秋）

（作曲 弘田龍太郎）

1919年（大正8年）
生き物には慈雨（じう）であるが寂しい
自然（しぜん）の移り変わり（うつりかへ）を待つ所（ところ）です

ホームホスピスが消える街

154号（8年前）には、
在宅医として待ち望んでいた
ホームホスピス「あこや」が
誕生した経緯（けいゐ）を書きました。

我が母も、あこやの前身に
世話（せわ）になって、自宅（じたく）看取り（かんとり）へ
繋が（つな）ったので喜び一塩（ひとしほ）でした。

記事を転載（てんざい）します。病院での経験からこんな見送り方

はしたくなかったという家族の負の遺産により在宅医療
を目指した方々との出会いが多い。最近こんな看取りも
できると知ったので依頼も増え、地域の医療や介護を
巡る文化が少しずつ変わってきたようにも思えます。

また在宅看取りができて、家族近親だけの共有に留ま
っていたのが、地域の話題にしても良いといわれる方も
現れています。「住み慣れた町で生活し、最期もこの家で」
の願いは、少しずつ目に見えてきたように思います。

地域で安心して住み続け、老いて、最期まで迎えるこ
ととが、実際に「あこや」というもうひとつの家で支えら
れ、確認できるなら素晴らしいです。「ともぐらしの家」
が継続（けいぞく）できることには、医療の役割として、今後も最大
限の協力（きょうりょ）をして参（まゐ）りたいと思います。（引用（引用）おわり）

その「あこや」が7月で閉じら

れると4月に突然聞き驚きました。
母体のNPOからは手続きのこと
しか聞けず、支援者や地域へ公表
説明は、いまだ、されていません。



ホスピス（緩和ケア）は必要だけどね・

病院ホスピスは味気ない。日赤緩和ケア病棟は
コロナで休止され未だ再開していない。伊勢病院
ホスピス病棟は実質3床で帰れないのが原則だと。
自宅ならば、訪問診療と訪問看護や訪問介護で、
在宅ホスピス（緩和ケア）は可能になります。
しかし核家族化で、介護力不足が一番の問題です。
迷惑をかけたくないと、家から離れようとする時
も一つの家「あこや」は地域の財産と言えます。

5人の入居者でしたが、歴代9人の最期へ助力
をしてくれました。その中心の山口絹さんの名を
覚えておいて欲しいと思います。宮崎へ半年間の
ホームホスピス研修に行き魂を引き継がれました。
最期を家で見守る、適切な介護支援者（きざいしんさ）者（しや）だと思います。

こどもには、先が分るよ

昨年の出生数が68万人って
最低更新（しな）たそうです。ピークは
1949年の269万人です。

私はその1年後の出生。日本の
未来は、これから生まれる子に
託（たく）すことになります。我が家の
出生予定（しうしんよてい）が3人。合わせて5人
の孫（まご）が歓声（かんせい）をあげる日が近い。

転居の発表、お待ち下さい

次号に詳細（しんじゆ）を掲載（けいざい）予定です。

夏季休診のお願い

お盆期間（お盆きかん）の休診（きしん）ですが、

8月13日（水）～15日（金）

暑くなる時期、ご自愛（ごじあい）を。



自宅での人生を
最期まで支援（しえん）します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105

メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
<https://isezaitaku.com>



→バックナンバー閲覧可